

岩波文化人として活動するメディア知識人の「メディア知識人の度  
合い」の比較—扇動をはじめとした覇権戦略の観点から—

Comparing “the degree of the media intellectuals” on the Iwanami  
media intellectuals

— from the view point of incite the hegemony strategy —

学籍番号：201421606

氏名：松井 勇起

Yuuki MATSUI

公的問題について情報発信し世論形成に関与するメディア知識人の研究は、社会変動をみていくために不可欠である。

大衆論やメディア論は以前から存在するが、大衆・メディア・メディア知識人三者をすべて取り扱う研究は竹内洋らによるもの以外存在しない。また、彼らの研究もメディア知識人を個別に扱うか、テーマごとに扱っているだけで、一貫した方法で扱っていない。

竹内洋は『メディアと知識人』(2012)等で、オルテガとブルデューの知識人論を引き継ぎ、公共知識人や専門知識人とは異なり劣化しているメディア知識人が出現していると指摘した。本研究では竹内のメディア知識人/専門知識人/公共知識人という枠組みを利用した。そこで、本研究では教養主義メディアである岩波書店に集ったメディア知識人を、竹内が中心的に扱った清水幾太郎や丸山眞男だけでなく、彼らと同世代の別の知識人や、彼らに先行し対立するオールド・リベラリスト世代も含めて一定の基準で比較を試みた。「メディア知識人の度合い」の分析を入口に、個別に竹内の扱ってない私学出身者を含めて各知識人を定性的に分析していくことを主眼とした。岩波新書や雑誌『世界』執筆者の中から、執筆回数が多い人物や戦後文化史で重要とされる人物を選んだ。

選定したメディア知識人に指標を当てはめ分析した結果、竹内(2012)で示された清水に代表される「転覆戦略系」や丸山に代表される「慎重戦略系」のメディア知識人だけではない、様々な類型を抽出できた。意図と結果が矛盾するケースや、メディア政治と学問の場での戦略が違うケースを類型として示し、竹内の枠組みの精緻化につなげた。具体的には、類型への分化・特に扇動を中心とする覇権戦略の違いをもたらす要因はブルデューや竹内のいう、いわゆる学校歴やキャリアの差異だけではなく、専門分野や個人のパーソナリティなども大きく存在することがわかった。さらにオールド・リベラリスト世代は、竹内が示唆したほど「メディア知識人の度合い」が低いわけではないことがわかった。

指導教員：後藤 嘉宏

副研究指導教員：横山 幹子